

## 夏期講習會について

□二三の人達から夏期講習會開催の請求があるから、希望者が多数であれば催して見やうと思ふ。よつて有志の方は宿所姓名を明記して假に本月二十日迄に本會へ申越されたい。

□講習會の規定は粗ぼ左の通りである。

一 會期、本年八月上旬より三週間

二 講習課目、墨繪、水彩畫、透視畫法  
其他水彩畫に關する講話

(望によりては教授法を加ふるゝあるべし)

三 講師、丸山健策、眞野紀太郎、大下

藤次郎(主任)

四 會場、東京府西多摩郡青梅町大柳分校。

五 會費、記名料金壹圓、講習料金貳圓  
(講習課目の數により増減なし)

以上

□私共の理想の講習會は、開期中講師と講習生と起居を共にし、一定の講習時間外には、一しよに寫生に往たり、課題を出して圖案を畫たり、雜誌もし遊びもして、師弟などといふ隔てを取去つて、三週間を尤も有益に且愉快に過し度思ふのである。  
□東京で開いたのではそのやうな自由が出来ぬ、それで場處を青梅としたので、同地

は態々避暑にさへ人のゆく處で、風景もよく寫生をするに好位置が澤山あり、町の重なる人々も同好者であつて、會場等の便宜もよい。夫に汽車も三時間は費すが、一日七回の往復があるから、東京より往くにも不便ではない。

□青梅にての費用は、汽車賃往復金壹圓の外に宿料は、三週間金拾圓以内で、確定の上は幾らか割引させる筈である。尤も近處の寺の座敷でも借りて自炊すれば極めて廉に上るであらう。

□此講習會は、會て鉛筆を持つた事のないといふ人達にも、開期中に一通り總ての智識を興へ將來獨習して往ける道を拓く計畫であるから、如何に初學の士と雖も入會する事が出来る。

□猶開期中は、各講師の所有せる繪畫に關する書籍印刷物等にて、講習生諸君の參考となるべき物は一通り備へて置く筈である

□會員規定は別項に登載致置候兼て屢々申上候通り志想の固き熱心家なれば其數の多きを望まず隨て世間並に比して入會の手續稍面倒なるべく候

□規定は假に定めしもの追々會員の御意見を求めて不都合の箇所は改正可致候

□會員にして水彩畫講習所及水彩畫夏期講習會の入會者には記名料半額たるべく候

□本誌初號より引續き直接講讀者には會員規定の徽章料は申受けざるべく候

□入會者にして既に雜誌代金拂込あるものに對しては會費として振替可申候

□本誌は會員外にも販賣致す事は迄の通りに候

□別項記載の夏期講習會は東京にて開催せば相互の便利なるべく存候へ共夫にては到底短時日の間に充分なる成績を得られまじく依て地方を選び候在京の諸君は避暑旅行の積りにて出掛けられんと希望致候

□次號には丸山晚霞氏の飛驒紀行多數の挿繪と共に出づべく候同行者吉田博氏との滑稽もありて頗る有趣味なるものに候

□三宅克己氏はスケッチ所感なる挿繪附の一文を本誌に寄せらるべく申趣され候定めて有益なる記事なるべく入手次第掲載可致候

□此程水彩畫講習所にて丸山晚霞氏は色彩について講話有之候大要は次號に出すべく候

□大阪1、0氏は本誌編輯費の内へ金貳圓御寄贈有之候謹で御厚志を謝し申候

□大阪嘉納氏の禪味とセンチマンなる御寄稿有益なれどあまりに長文にて掲載致兼候

□筒井角太郎氏へ輕妙のスケッチなれど人物の眼があまりに大にして濃く覺え候體の釣合等には格別批難を見出さず候